上條小・条東小・小津中 小中一貫教育校 始動

泉大津初

三校合同オンライン朝礼（小津中から発信　令和3年2月17日）

▲小中連携教員総会（上條小から発信2月9日）

▲小６体験授業（小津中 3月3日）

施設分離型小中一貫教育開始

小津中校区で施設分離型の小中一貫教育がスタートした。本校区では通学する小中学校は従来のまま、教職員間や地域との連携を充実させるとともに、児童生徒の交流を促進し、一貫した指導支援体制を確立する。令和三年度は九年間を見通した重点カリキュラム（裏面説明）にもとづき、教育内容の一層の連携を図る。

オンラインで合同朝礼 中学校体験も充実

モニターを食い入るように見つめる先生と子どもたち。みんなの笑顔がこぼれる。

小中一貫教育校へ向け、二月に初めて行われた校区合同オンライン朝礼の様子である。朝礼は中学校生徒により小津中の様子が紹介されるなど生徒主体で進められた。

三月には六年生を対象に小津中体験プログラムも実施。中学校で生徒作成の動画や体験授業で盛り上がった。

小学校間の連携も強化 「おづみん会議」開始

「おづ中校区の先生がみんなで」話し合う「おづみん会議」がスタートする。昨年度小学校間の連携を目的に行われた「小小合同学年会」を発展させたものだ。中学校での会議を加え、小津中校区のつながりをさらに強化し、めざすこども像・学校像にもとづき、具体的な授業づくりや業務の連携を行っていく予定。

「中一ギャップ」解消の取り組み推進

これまで課題とされた、中学校進学時、新たな環境に戸惑う「中一ギャップ」解消の取り組みとして、令和３年度も昨年に続き「中一スタートカリキュラム」を実施。小中の教員が連携し、小学校で培った力を活かすことを主眼にした取り組みが動き出している。

評価のあり方検討 中は定期テスト廃止

小津中では昨年度、授業のあり方を、対話を重視したアクティブな学びへ大きく変化させてきた。今年度は学習の積み残しの原因となっていた定期テストを全面廃止。きめ細やかな指導と評価を充実させていく。

校長's EYE

子どもが安心できる学校づくりを

上條小学校 校長
辻井由美子

学校の主役は、子どもたちです。一人ひとりが人間の基本的な欲求である「所属感」を感じ、安心して学校生活に送ることができるよう、学校づくりに取り組んでいきたいと思います。

国語科から広げる言語活動「伝える力」の育成

条東小学校 校長
松田義広

ネット社会だからこそ、正しく丁寧な日本語の習得が大切です。タブレット端末を使った学習においても、日常生活での携帯端末使用においても、自他の思いや意見を正しく相互に伝え合う言語能力が重要となります。伝える力を育成するためには国語科を中心とした『書く』スキルが求められます。

オンライン活用に期待

小津中学校 校長
高橋敏也

今年度より小津中学校の校長となった高橋です。コロナ禍で大変な状況が続きますが、小津中校区ではオンラインツールを効果的に活用した連携を進めてきました。今後も対面とオンラインの双方の良さを生かし、小中一貫の取組みを進めてたいと考えます。

めざす学校像「みんなが安心 みんなで創る あなたが輝く学校」

※詳細カリキュラムは裏面

2021年４月１９日(月)　小中一貫教育校スタートのお知らせ

「９年間の学び」重点カリキュラムを実施

「みんなが安心 みんなで創る あなたが輝く学校」へ

小津校区では令和３年2月、小津校区の「めざす学校像」と「『９年間の学び』重点カリキュラム」を策定した。この学校像は小学校側が大切にする「安心」や居場所づくりの視点と中学校が推進する「創る」をキーワードとした主体性育成の視点を大切にしながら、一人ひとりが大切にされ、その良さが発揮されることをめざしたものである。また、課題であった小中一貫カリキュラムを１年間の試行錯誤を経てとりまとめた（下記の表）。新学習指導要領でも重視される言語能力と情報活用能力を重点化し、これからの社会をよりよく生きる力の育成をめざす。

THE SCHOOL MAKES YOU HAPPY, CREATIVE & SHINE

みんなが安心　みんなで創る　あなたが輝く学校　（令和3年度 めざす学校像 ）

小津校区　９年間の重点カリキュラム

	START STAGE	HOP STAGE		STEP STAGE		JUMP STAGE		LAST STAGE	
	幼 スタカリ 小１	小２	小３	小４	小５	小６ スタカリ 中１		中２	中３
言語能力（伝え合う力）の育成 話す／聞く／話し合う	知らせたいことを話したり、聞いたりする	大事なことを落とさずに話したり聞いたりする 伝えたいことを決めて、発表する	相手や目的を考え、理由を挙げて話す	調べたことを発表する	説得力のある提案をする（事実と意見を区別する）	資料を使って、自分の考えや思いを効果的に伝える	話の構成を考えて魅力的なスピーチをする グラフ・図表・文章などから読み取った課題について話す	話の構成や資料を工夫して相手の心を動かす提案をする 話の要点を捉え，筋道が通っているかを検討する	聞き手の心に訴えるスピーチをする 論点を整理し，展開を捉えて話し合う
	考えながら聞く	質問して、相手の考えを引き出す	話を聞いて、質問する	聞きながらメモを取る	「きくこと」で理解し合う	聞いて、考えを深める	質問で話を引き出す	質問で思いや考えを引き出す	内容や表現のしかたを評価しながら聞く
	二人で話し合う	考えを出し合い、話し合う	役割に応じて話し合う	役割を意識して話し合う	立場の違いを明確にして、計画的に話し合う	目的や条件に応じて計画的に話し合う	話題や展開にそって話し合いをつなげる	互いの考えを尊重しながら話し合いを深める	話し合って合意を形成する
言語能力（伝え合う力）の育成 書く	詳しく書く 分かりやすく書く	観察したことを書く	例を挙げて書く	事実を分かりやすく伝える	調べたことを正確に伝える グラフや表を用いて書く	提案する文章を書く	伝えたいことを明確にして説明する 根拠を明確にして自分の考えを伝える	適切な根拠を選び，構成などを工夫して明確な論説文を書く	条件に応じて説得力のある小論文を書く
	順序に気をつけて書く	順序が分かるように書く 組み立てを考えて書く	組み立てを考えて、報告する文章を書く	理由や例を挙げて考えを伝える	説得力のある意見文を書く 相手や目的に合わせて書く	伝えたいことに合わせた構成を考える	調べたことを整理してわかりやすくまとめる	目的や意図に応じて，多様な方法で情報を集める	観察・分析を通して評価し、批評文を書く
学習用語	作者・題名・役者	登場人物・メモ・あらすじ・組み立て・質問・筆者・話題・出来事	場面・段落・問い・引用・句読点・索引・連・キャッチコピー・会話文・地の文・司会・実付・締リチ	編集書き・要点・対比・設定・要約・見出し・取材・創り付け・アンケート調査・情景・議題・出展	心情・人物像・日本十進分類法・要旨・構成・事例・主張・根拠・山場	視点・著作権・推敲	プレゼンテーション・批評文・続る質問・書評・スピーチメモ・応げる質問・フリップ・レポート等	グループ・ディスカッション・意見文・インタビュー・ガイドブック・双括型・議括型・尾括型等	会議・小論文・対談・ディベート・パネルディスカッション・評価・ブレーンストーミング・編集会議・ワールド・カフェ 等

※参考　光村の「国語」構造と系統（2020度版）

自分の道を切り拓く（創造力と判断力）

子どもが「問い続ける」サイクルを大切にした授業づくり・集団づくりを通して（教員が問い続ける）

情報活用能力の育成

教職員の共通理解	A1:記録と編集　A2:PCの操作　A3:ウェブ検索　A4:図書利用 A5:インタビュー　A6:アンケート　A7:思考スキル　A8:プレゼンテーション
活動スキル	B1:取捨選択　B2:情報の読み取り　B3:新しい価値の創造　B4:構成する力　B5:表現の工夫 B6:相手に応じた表現　B7:計画の立案と調整　B8:協働　B9:批判的考察
創造スキル	C1:情報社会の特性理解　C2:セキュリティ　C3:個人情報　C4:責任ある情報発信　C5:法の理解と違法精神 C6:ルールとマナー　C7:健康と安全　C8:自己評価と自己調整　C9:粘り強さ
主体的態度	※各ステージの詳細は別紙
プログラミング	【知識及び技能】身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付く。 【思考力、判断力、表現力等】発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする。 技術科：・計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。・問題を見いだして課題を設定し、入出力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順　を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができる。

自他を見つめ、認め合い、互いを大切にする

言語能力（伝え合う力）と情報活用能力を重点に指導

全市的課題である言語能力を系統化

一つ目の重点は「言語能力の育成」。これからの社会を生き抜く子どもたちには伝え合う力が欠かせない。多くの情報を読み解き、重要な要素を書きとめ、友だちに伝え、話し合い聞き合う。そのような活動が大切である。校区全職員で九年間の言語能力育成カリキュラムを作成・共有した。これにより系統性を確かめながら、子どもたちのよりよい学びにつなげていきたい。

情報活用能力育成へ端末活用でも連携

二つ目の重点を「情報活用能力の育成」とし、三校の担当で連携を開始。この連携会議により、国の施策のもとで配備された一人一台端末の効果的活用や子どもたちが正しく情報機器を活用する力の育成に向けた取組みを系統化。直近の課題は「情報モラル教育」とキーボード入力等の「活動スキル」。今後さまざまな学習やテストで文字入力等が必要となる。また、家庭でスマホを使用する際に子どもたちがトラブルに巻き込まれる事例も少なくない。家庭とも連携しながら子どもたちに確かな力を育成したい。

子どもが問い続けるサイクルを大切に

これらの学習過程の中で、大切にしたいのは子どもが自ら「問い続ける」こと。子どもたちが互いを尊重できる関係の中で、子どもが問い、子どもが答える授業や日々の関わりを重視したい。

課題は家庭学習等で自ら学ぶ力

課題の一つは、学校外の時間などで「自ら学ぶ力」を育てること。中学校時点で生徒が家庭学習を行う時間は少ない一方、スマートフォンでSNSや動画視聴を行う時間が非常に長い。家庭学習時間が学力向上に与える影響は大きく、計画を立てて学習する力も重要である。興味関心を持てる授業を充実させるとともに、一人一台タブレット等を活用することで、家庭学習促進に取組みたい。

小中一貫教育に向けたこれまでの歩み

▼平成三十年度～令和元年度

中学校教員を小学校へ派遣／小・中学校教員の相互授業見学／教職員合同研修・業務ごとの連携会議／小津中宣伝プログラム　等

▼令和二年度

小学校間の連携を図る同学年ミーティング／中一スタートカリキュラム／中学校教員の小学校見学／小中一貫総会／校区合同オンライン朝礼／小津中体験プログラム（小津中紹介・体験授業）

〈教育長より〉資質・能力の向上を

小津校区では、これまで教職員間の交流や合同研修などを通して、小学校から中学校へのスムーズな接続についての協議が行われてきました。今後、九年間の学びのカリキュラムの実践による小中一貫教育を行っていくことで、子どもたちの資質・能力が今まで以上に育成されることを期待しています。

泉大津市教育長　竹内　悟